

# 森の風の記憶

Presented by 諸塚村観光協会「まちむら応縁倶楽部」

諸塚の四季 Vol 1 通信紙創刊と台風災害

創刊第1号

平成17年9月15日発行

目次:

やま学校日記	2
諸塚を食べる	4
諸塚に泊まる	5
イベント案内	6

この通信誌は、ご希望の方はメールでもお届けできます。下記にご連絡ください。

町に暮らす方と山村に生きるものの幸せな心のつながりを創ろうと始めた「まちむら応縁倶楽部」も8年目を迎えます。木の家づくりを求める方のための「諸塚村木材産地ツアー」から始まり、「エコツアー」「大豆応縁倶楽部」「環境を学ぶ旅」など、いろいろな企画を展開してきました。特にエコツアーは8月で60回を数え、「やま学校シリーズ」として村内に広く展開しています。

初めは「こんな山に誰か来てくれるじゃろか」「どんな人が来ると?」「なにも人に教えるようなことはできんよ」とか心配していた村の人たちも、「今度は何人来ると?」「今年はこんぎゃした方がええばい」とか楽しみにするようになりました。

今までの「まちむら応縁倶楽部」の様々な活動と感動の記録は、諸塚村ホームページに詳しく掲載していますが、あわせてこの秋から通信誌とメールマガジン「森と風の記憶」を創刊することになりました。期間3年限定で毎月発行する予定です。これまでずっと通っていただいている常連さんはもちろん、しばらくご無沙汰しているみなさんも、これから参加したいと思われる方にもご希望があればお送りします。

本誌の創刊準備中の9月6日、諸塚村は台風14号の災害に見舞われました。年間雨量の4割にあたる1000mmの雨が降り、中心商店街が浸水、家屋流出、道路を封鎖する崖崩れが続出しました。昨年の台風でも大きな被災を受けましたが、今回はそれ以上の規模で未曾有の大災害です。人的な被害がなかったことが救いですが、精神的なダメージは大きく、復旧にはしばらく時間が掛かりそうです。

通信誌「森と風の記憶」では、その状況も含めて、諸塚村の情報を皆様にお知らせする予定です。あわせてみなさんのご意見ご感想もお聞かせいただくと幸いです。

## 今月の出来事

- 8月1日 川崎市サマーキャンプ
- 8月6日 諸塚夏祭り「ぎゃあな祭」
- 8月11日 K新聞社視察調査
- 8月20～21日  
エコツアー「諸塚でやま学校しよう!」
- 8月21日 ふれあい釣り大会
- 8月23日 鹿児島県K町視察の受入



彼岸花の群生が今年も山間の集落を彩ります



宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068  
しいたけの館21内諸塚村観光協会  
0982-65-0178  
Fax 0982-65-0189  
e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

HP <http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp>  
e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

## やま学校日記

第60回 平成17年8月20日(土)～8月21日(日) 受講生11名

今回の第60回エコツアー「やま学校しよう!」は県内外から11名の受講生がありました。

1日目は最初にかヌー教室で、耳川の支流南川地区を流れる野川(のうごう)が会場でした。全員がかヌー初体験でしたが、諸塚かヌークラブメンバーに指導を受けながら1時間も漕いでいると勘をつかみ、気持ちよく漕げているようでした。最後に、上達度テストで2組に分かれてレースをしましたが、抜きつ抜かれつの僅差の好レースでした。

次は森の古民家「やましぎの杜」の近くで焼き畑のそばまきでした。あらかじめ甲斐光さんに焼畑のため杉の葉や麦わらを畑にまいていただきましたが、雨が降り出して濡れたため、数カ所に集めて強制的に火を付けました。そして「そばの種」をまいて、その後を鍬で耕し薄く土をかぶせました。

そばまきの後は、(普段の生活どおり?)女性は先にゆっくりお風呂に入り、男性は食事の準備に掛かりました。地元のご婦人方の煮染めや油味噌の差し入れがあり、それをメインに、椎茸の味噌焼きなどで食卓を飾りました。皆さんかヌーやそばまきでお腹を空かせていたようで、食が進んでいました。

2日目は、こんにゃくづくり講座。七ツ山の甲斐真由美さんが先生でした。煮て柔らかくなった“こんにゃく芋”とお湯をミキサーにかけたものをタライに移し、にがり(木酢)を入れながら手で混ぜると、だんだんあのコンニャクの灰色に変わっていきます。堅くなってきたところで、手やお椀で適当な大きさに形を作り大釜で茹でました。

茹であがるまでの時間を使って、諸塚の案内人K君(福島県出身)による、萱(草)を使ったバツタ作り講座をしました。本物そっくりの雰囲気を持った草のバツタが、初めての方でも10分ほどで出来る工作に皆さん真剣になっていました。思い思いのバツタを作り上げた頃、コンニャクが茹であがって浮かんできました。昼食には出来たばかりのコンニャクの酢みそ和えや、鶏肉との甘煮をつくって食べました。

最後にやましぎの杜の玄関前で記念写真を撮り、別れを惜しみながら解散しました。

今回は大所帯ではなかったのですが、参加者全員が知り合いになれたようでした。お誘い合わせのうえ、また参加していただくと大変うれしいです。



## 参加者の声

「おもしろかった。はまりそう！」

### < 施設について >

- ・良い建物を永く残してもらってありがとう。今のままで、余り便利にしないでください。
- ・屋根や土間、かまど等日本の伝統的な住まいの良さを感じた。
- ・やましぎの杜はゆっくり出来るよね。

### < 食事について >

- ・地元の方の煮染めが超うまかった。
- ・美味しくいただきました。

### < 今後エコツアーで体験したいこと >

- ・かずら細工。
- ・紙漉もしてみたい。
- ・漬け物作り

### < 今回のエコツアーについて感想 >

- ・カヌーが面白かった（はまりそう！）
- ・こんにゃくづくりが予想以上に面白かった。
- ・少人数のアウトホームな感じで良かった。
- ・バッタ作りが楽しく教えてもらいました。
- ・釜でお焦げご飯が上手に出来て良かった。
- ・新しい参加の人が増え次の参加が楽しみになりました。



「今のままであまり便利にしないでください」



## 案内人・世話人の声

今月の案内人 片平 樹

今回話題になった「萱の葉のバッタづくり」は、最初カヌー見学をされていた方の暇つぶ

しのために始めたのですが、次の日にみなさんに教えることになるとは想定外でした。

バッタづくりは、私自身2年前に教わったものです。萱の葉は、この時期が旬ですので、今回諸塚で覚えてもらうことは、私にもとてもうれしいことでした。

みなさんとても熱心で、できあがったときの笑顔が印象に残っています。「また来るときには他の虫も教えてね」と言われましたので、新しい虫づくりに励んでいます。

私もいろんな方と触れあうことで、新たな発見を得られます。来年もいっしょにバッタをつくりましょう！

かたひら いつき 福島県出身 25歳 独身  
東京農大卒。平成15年に緑のふるさと協力隊(森林ボランティア)で諸塚村に派遣される。終了後も諸塚村への定住を希望して村に残り、現在は森林組合職員として活躍中。

## 諸塚を食べる！（１）

もろつか産ブルーベリー「青い滴（しずく）」

諸塚村は、急峻な山に囲まれ耕地が少ないためその条件を生かせる林業、椎茸、畜産、木材を４大基幹産業として、家族型の複合経営を推進してきました。複合経営となったのは、それぞれ手の掛かる時期がずれるため、作業量が集中せず家族労働でできること、そして１村１品ではなく複数の主力商品を保つことで、大もうけはしないが景気の動向に比較的左右されにくい、安定した収入を得るためでもありました。



もともと農業生産量は非常に少なかったのですが、数年前から高冷地の小規模な耕地でもできる野菜等の園芸作物などに力を入れ始め、木材と椎茸の価格低迷を補う努力をしています。

そのような中、比較的作業量の少ない夏場に収穫期となる新たな作物として（一部の農家ではそれまでも取り入れられていましたが）、ブルーベリーが取り上げられ、平成１３年に「新作物ブルーベリー導入検討委員会」が当時の中本村長を会長として設置されました。村外の「暖地ブルーベリー研究所」の串間所長に技術顧問を依頼し、村内の圃場で試験栽培を進めました。翌１４年１０月には生産者による「諸塚村ブルーベリー研究会」が設置され、先進地視察を行うなどしてよりよいブルーベリー生産のため研究を重ねてきています。

平成１７年度から、諸塚産ブルーベリー「青い滴」と命名して、統一したラベルと容器を作成し、主に宮崎市に特産品販売所「海幸・山幸」で販売をおこない、本格的な販売の取り組みを始めました。現在の生産者は５名ですが、完全無農薬栽培へのこだわり、ジャムやクッキーへの加工、注文販売をするなどして販売努力を続けています。

収穫期は８月頃までで終了しましたが、来年は新規で生産を始める方も見込まれており、現在の生産者も栽培面積を増やすなど、諸塚産農産品の夏の看板として認知されるようがんばっています。

来年には、ブルーベリー狩りが体験できる様になると良いですね。



## マメ知識（１） ブルーベリーって？

北米が原産のツツジ科低木性果樹です。効能として有名なところでは疲れ目の改善、視力向上があります。これはサツマイモの一種にも含まれる紫色の色素「アントシアニン」の働きによるもので、他にも活性酸素の生成を抑制することから動脈硬化や血栓症防止、ガン予防効果があるといわれています。また、緑茶の渋み成分の一種「カテキン」も含まれています。これには抗ガン作用と、体内の毒素を消す働きがあり、環境汚染などからも身を守る成分として注目されています。

## 諸塚に泊まる（1）

### 立岩公民館桂地区「学びの館」

立岩公民館は、諸塚の名の謂われである諸塚山を仰ぐ地にあり、諸塚村でも一番北側に位置します。「学びの館」は、その内の桂地区にある体験宿泊施設です。

桂集落は、諸塚村の中でもかなり古い集落で、その古い歴史遺産の一つに、室町時代に建立された熊本県小国町の阿蘇家重臣・北里伯耆守為義のお墓があります。1513年に阿蘇家内紛で北里一族が逃れてきて、遠いこの地で追手の島津軍に玉砕されたと伝えられます。神官である元村長の甲斐重勝家が先祖代々その墓守をしていますが、事情は伝えず長い間「遠い地から来た不運の武者」として祀っていたそうです。明治期に小国町から北里家の子孫が「七ツ山村（諸塚村の一部）の桂に先祖が祀られる」という家伝の書き付けを手に訪ねて来られ、桂の方は初めてその謂われを知ったのだそうです。

時は流れ、現代の桂集落の地区集会所も兼ねる「学びの館」は、諸塚村の国際交流の重要な拠点となっています。平成4年に整備されましたが、タイ、ネパールなど外国人が諸塚に来られたとき、ほとんどの場合ここで受け入れをしています。

もともと桂にお住いの見原隆明さんがオイスカの一員であり、見原さんの奥さん・アイザさんはタイ王国の出身だったことから受け入れが始まったものですが、施設内には、その交流の歴史を刻んだ記念品が数多くおかれています。

今年から、国際交流だけでなく、一般の利用者にも開放しようと手続きを進め、体験宿泊などの受け入れが可能になりました。山奥の小さな集落で、自然に囲まれゆったりとした雰囲気を楽しめます。

アクセスは、諸塚の一番奥ですが、来年度開通予定の大規模林道から近く、高千穂へ小一時間でいけるようになる予定ですので、将来は玄関口になるかもしれません。



## 施設情報

### 「学びの館」

- 定員10名 専用浴室・専用便所・専用台所・布団一式付  
台所に簡単な食器類・冷蔵庫・炊飯器が付いています。
- 利用料 一般 1泊2日 3,000円/人（10名以上の団体2,500円/人）  
中学生以下 2,000円/人 3歳未満 無料
- 備品使用料 100円/人
- 手続き チェックイン 15時～17時  
チェックアウト 11時
- 予約・問合先 しいたけの館21  
0982-65-0178  
Fax 0982-65-0189



## 10月のイベント情報

### 第7回 黒岳もみじ祭り開催!

黒岳(1,455.3m)は、諸塚村で一番高い山で、最大規模のブナ林があります。

昨年の第6回は、台風災害の影響で道路が寸断され、やむなく中止となりました。今年も9月6日に記録的な豪雨による台風の大被害を受け、実施できるかどうか心配されましたが、逆に今年は「もみじ祭り」で地域の元気を出そうと、地域を上げての復旧に尽力し、開催にこぎつけました。

皆様には、ご心配をお掛けしましたが、諸塚においでいただき秋の大自然と紅葉と、おいしい水と田舎料理を味わいながら、元気な諸塚を楽しみましょう。

2年分の心を込めて、皆様のご参加をお待ちしています。

日時 平成17年10月30日(日)

場所 黒岳登山口広場

内容 8時30分受付開始

9時30分~開会行事 ウッドカット後登山開始

12時~下山後交流会 アトラクション・神楽

特産品の販売を予定しています。

時間及び内容は変更になる場合があります。

福岡・熊本方面道路事情で迂回路になりますので、事前にご確認ください。

また登山道までは、乗用車のみの乗り入れとなります  
(マイクロバス不可)

主催 黒岳もみじまつり実行委員会

後援 諸塚村 諸塚村観光協会

問合せ先 諸塚村観光協会 0982-65-0178



### 編集後記

史上空前の台風災害は村のありようも変えそうな勢いでしたが、時が来れば、自然は変わらぬ恵みを与えてくれるのではないのでしょうか。時間は掛かるかもしれませんが、それを糧に再生していければと思います。

「森の風の記憶」をとおしてこれから皆さんに、諸塚の話題をささやかながら提供できればと思いますので、ご縁よろしくお願いします。(直)

都市との交流事業を始めて8年、当初から構想にあった通信誌がやっと創刊されました。当初は、こういう通信誌があると情報が広がるかなという程度でしたが、こんなに多くのみなさんが諸塚に来ていただけ、逆にその報告も兼ねた通信誌になるとは想像さえしていませんでした。毎月部数1000部で、目標月1回発行の予定です。これまでは、通信手段はお葉書か、ホームページ、メールでしたが、これからは、「森の風の記憶」が、みなさんのネットワーク「まちむら応縁倶楽部」を支えていきます。皆様のご意見をお待ちしております。(矢)

### 【10月の予定】

10月16日 飯干神社秋祭り

10月20~21日

森のエコスクール・延岡市緑ヶ丘小学校

10月22日

エコツアー「諸塚でやま学校しよう!」~23日

諸塚神社秋季大祭 南川神社秋季例大祭

八重の平神社秋季例大祭

10月23日 川内神社秋祭り

10月30日 黒岳もみじ祭り

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068

しいたけの館21内諸塚村観光協会

0982-65-0178

Fax0982-65-0189

e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

全村森林公園 諸塚  
百影の森づくり

諸塚村

Presented by 諸塚村観光協会  
「まちむら応縁倶楽部」